

まち紹介

第6回

銚子

東国三社と猿田神社と
銚子を歩く 第1回文・写真
橋本 修一

始めに

今回は東国三社の紹介です。まず香取市にある香取神宮を参拝し、その後茨城県鹿島市にある鹿島神宮と神栖市にある息栖神社を参拝していきます。鹿島と息栖は、茨城県ですが、その昔は、香取を含むこれらの地域は、常陸国(ひたちのくに)と呼ばれていました。そこで、片手落ちにならないように東国三社めぐりをし、さらに銚子の猿田神社まで行ってみようと思います。



1. 香取神宮を歩く

香取神宮と、鹿島神宮は、大神宮(伊勢神宮)と並んで、神武天皇の御代に創建されたとあるが、はっきりしたことは解っていません。平安時代の927年にまとめられた歴史書物である『延喜式神明帳』によると、神宮と名の付く場所は、この三箇所しか無かったと言うこと(江戸期まで)。香取神宮の御祭神である経津主大神(ふつぬしのおおかみ)は、天照大神の命により、鹿島神宮の御祭神である武甕槌大神(たけみかづちのおおかみ)と共に、出雲へ派遣され交渉をして、みごと国譲りに成功されたということです。この由緒からも国家鎮護の神として、現在に至るとのことです。

それでは香取神宮の参拝に向かいましょう。参道の茶店を通り抜けると、見えてくるは朱塗りの大鳥居です。さらに砂利道のザクザクという靴音を聞きながら参道を進むと途中に茅葺き屋根の四脚門が現れます。これは、天明元年(1781年)に大宮司邸の表門として、建てられました。残念ながら齋館の役目もあった大宮司邸は、昭和23年に焼失したということです。そしてこの表門のみが、



残ったのです。桁行三間(21.075尺)梁間は二間(12.35尺)の大きさで、一重の切妻造の茅葺きです。この門は、香取神宮境内の中で唯一残るかやぶき屋根の建造物として、平成7年に香取市指定の有形文化財に指定されました。

